

景況レポート

(10月分・情報連絡員80名)

業況全体DI値10.0ポイント回復

【概況(全体)】

10月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが12.5%(前回調査8.8%)、「悪化」が25.0%(同31.3%)で、業界全体のDI値は-12.5となり、前月調査と比較し10.0ポイント上回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、全体及び非製造業で全国及び東北・北海道ブロックを大幅に上回り、製造業についても好転業種割合が増加したことで、高い水準で推移した。

【業界別の状況】

業界別では、一部の鉄鋼・金属、卸売業及び建設業で業況の好転割合を維持しており、一部の印刷、サービス業が好転に転じ、小売業等で悪化割合が減少したことで景況感が回復した。

なお、全体の景況感は、売上高及び資金繰りで改善が見られるものの、依然として各調査項目で低調に推移しており、今後も原材料及び燃料価格の上昇による経営コスト増加も見込まれており、利益率への影響も懸念されることから、中小企業の先行きは予断を許さない状況にある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-12.5	-17.0	-19.7
製 造 業	-18.7	-13.1	-22.0
非製造業	-8.3	-20.0	-18.5

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

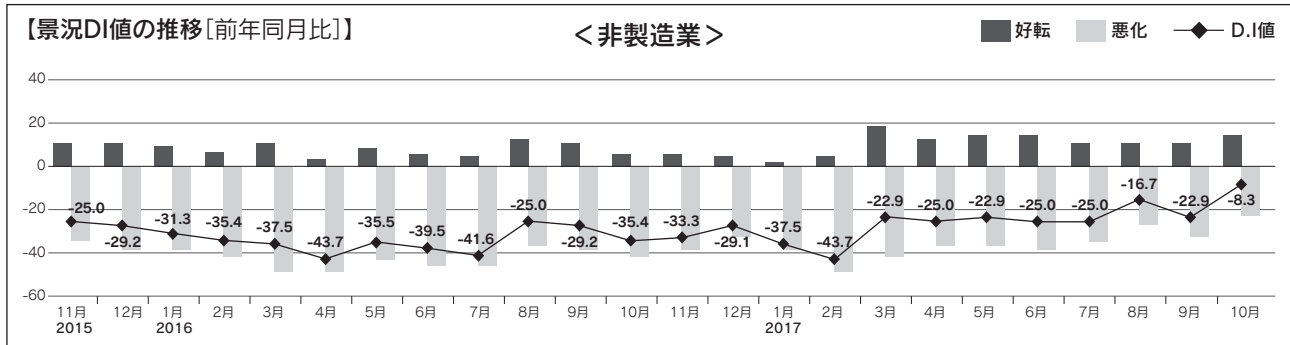
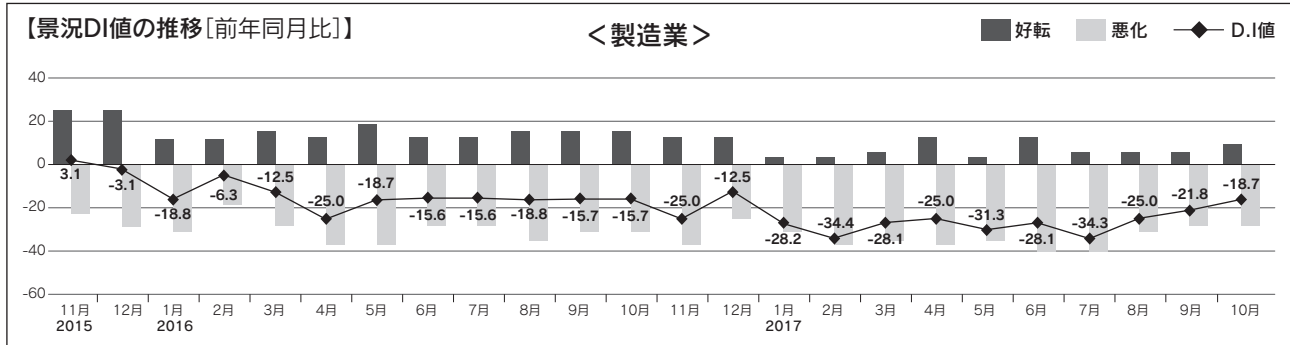
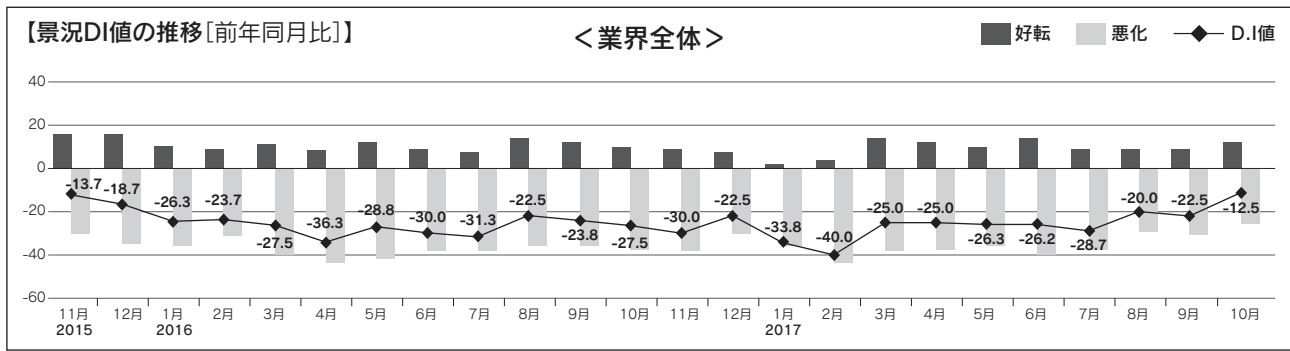
【凡例】 **【天気図の見方】**
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	秋になり鍋物などの需要で売上は伸びたが、対前年比では若干低調に推移した。
食 料 品 (製 麵)	寒くなってきているが、例年より商品の動きが鈍い。小麦粉が2期連続で値上がりしているが、価格転嫁が出来ず苦慮している。
食 料 品 (米飯給食)	コンビニエンスストア部門が厳しいものの、大手スーパーチェーン、特注弁当、宅配弁当、学校給食部門では前年同月比を上回り、全体では107.4%で推移した。収益概況は、原材料上昇(海苔・米等)に加え、光熱費(LPG単価)及び賃金の増加により減益の見込みである。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	期中生産の追加がほとんどなく、昨年より早く閑散期に入った。インバウンド需要が一段落し、店頭売上が不振な上、暖冬予測が出て仕入れに慎重になっている。
織 維 工 業 (織 維)	冬物商品の受注状況は昨年同月比では少し良くなってきている。ただし、作るアイテムについては少しバラツキがあり、特にカットソー自体が良くない。最低賃金の改定及び運賃等の経費の上昇で厳しい状況にある。
木 材 ・ 木 製 品 (一般製材)	10月の製品受注量は、角柱・間柱・羽柄材ともに九州地区の品薄感の影響もあり、順調に推移している。原木は秋田県内で一般製材用の出材量が減少しているため、価格・運賃の高い原木を県外の素材業者から全体の30%を仕入する危機的な状況となっている。
木 材 ・ 木 製 品 (外 材)	船川港に北洋カラマツ材原木3,432m ³ の入港があった。賃貸住宅やリフォーム需要は息切れ感もあるものの、戸建や非住宅需要は旺盛で厚物合板等の構造用面材の需要は好調だった前年同期の水準を維持している。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	10月の出荷数量は、前年比90%前後であり、4月～10月累計で95.0%台と予想される。10月は年間の出荷数量のピーク月であるにもかかわらず、10%減と今後の年間出荷数量にも影響が出ると思われる。今年度当初、610,000m ³ (前年比101.7%)と想定したが、再想定の結果、582,000m ³ (前年比97%)となった。
鉄鋼・金属 (鉄 鋼)	先月に引き続き受注面、収益面とも好調を維持している。これからの冬場に向けて燃料費等コスト面での負担は増加するがそれでも当面は安定した経営が見込まれる。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	一部組合員において、材料の秋田スギの入手が難しくなっている。相変わらず、需要に供給が追いつかない状況にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

- | | |
|----------------|--|
| 卸売業
(卸 団 地) | 仕入単価の上昇分を販売単価に転嫁することが難しく、かつ需要の停滞も相まって取り巻く環境が厳しいことに変わりない。 |
| 小売業
(自 動 車) | 10月の新車販売台数は、登録自動車が前年同月比101.9%、軽自動車と同98.2%で、合計同100.0%であった。軽自動車は7ヶ月ぶりにマイナスとなった。 |
| 小売業
(石 油) | ガソリンの小売価格は、1ℓあたり133円40銭で前月比2円30銭の値上がり、軽油は1ℓあたり114円80銭で前月比3円の値上がりとなった。配達灯油18ℓは1,407円で前月比69円値を上げた。原油価格が値上がりし、為替レートが円安に振れたことによるものである。灯油については在庫減により大幅な値上げとなった。 |
| 小売業
(電 機) | 前年同月比107%と好転、今年は寒さが早く、暖房機の出足が早かった事と消費者も「寒冷地エアコン」の事を理解してくれるようになり、単価アップしたエアコン売上が前年比7%アップにつながった。 |
| 商店街 | 食料品、酒類、身の回り品販売については前年並みの売上、家電販売はクーラー等が売れたことで前年同月を上回った。(秋田市)

9/30(土)、10/1(日)の2日間、湯沢市役所を会場に「まるごとどんEXPO2017」が開催された。初日は雨のため客足が悪く、2日目に集中した。市役所が会場だったものの商店街でもうどんチケットの販売や残ったチケットを金券として利用できるサービスに参加した結果、商店街にも客足の流れがあり、普段の日曜日よりは売上が増加したようである。(湯沢市) |
| サービス業
(旅 館) | 国内は例年並みであるが台湾からのインバウンドが増加し、前年同月を上回っている。 |
| 建設業
(一般建築) | 全般的に仕事がある。各官庁から豪雨災害復旧工事の発注が出てきており、人員が不足してきている。 |
| 運輸業
(トラック) | 輸送量はやや落ち込んだ。軽油価格が前月比4.5円/ℓ上昇、前年同月比では11円/ℓ上昇している。今後も高値が続くと予想される。 |